

第 1 回練馬区生涯学習のあり方に関する有識者会議 議事概要

- ◆ 日 時 平成 22 年 4 月 28 日(水) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 04 分
- ◆ 場 所 教育委員会室(練馬区役所本庁舎 12 階)
- ◆ 出席委員 4 名

◆ 次 第

1 委嘱式

(教育長より各委員に委嘱状交付)

2 挨拶・諮問

- 教育長
(挨拶)
(諮問文の読み上げ)

3 自己紹介

- 池田委員
武蔵野音楽大学の池田です。この名簿にあるとおり、かつて文化芸術振興有識者委員会の委員をしていました。よろしくお願いします。
- 岩崎委員
国立教育政策研究所の岩崎です。練馬区では基本構想審議会の委員をしておりました。よろしくお願いします。
- 漆澤委員
武蔵大学の漆澤です。現在、練馬区子ども読書活動推進会議の座長をしています。よろしくお願いします。
- 作野委員
早稲田大学の作野といいます。昨年度、区のスポーツ振興基本計画策定に関わらせていただきました。よろしくお願いします。

(区の出席職員自己紹介)

4 座長選出

- 事務局
座長の選出をさせていただきます。座長は資料 1 の「設置要綱」の規定に基づき、教育長が指名をすることとさせていただきます。教育長からは岩崎委員にお願いしたいとありますが如何でしょうか。

(委員了承)

それでは、岩崎委員に座長をお願いいたします。

次に座長の職務代理者の選出ですが、これも設置要綱によりまして、座長が委員の中から指名することとさせていただいております。座長からご指名をお願いいたします。

○ 座長

それでは、池田委員を指名させていただきたいと思いますが如何でしょうか。

(池田委員了承)

○ 事務局

それでは、座長、職務代理者よろしくをお願いいたします。

座長からご挨拶をお願いいたします。

○ 座長

改めましてご挨拶申し上げます。本会議は、先ほどの教育長のご挨拶、諮問にもありますように、練馬区の基本構想、長期計画という大きな枠組みの中で、組織的な改革も含め、生涯学習施策をどう位置づけるか、ということを検討するものです。委員の皆さまは、専門的な立場で、すでに練馬区の様々な会議の座長や委員として、ご活躍なさっており、この会議でわたくしが座長を拝命することは、僭越かと思いましたが、基本構想の審議会の委員として、構想全体を知る立場にあったことからのご指名と考え、お引き受けさせていただきました。司会進行役ということになると思いますが、どうかご協力のほどお願いします。

○ 事務局

これより座長に議事の進行をお願いしたいと思います。なお、教育長につきましては、ここで退室をさせていただきます。

5 案件

○ 座長

それではこれより議事に入ります。その前に事務局から資料の確認をお願いします。

○ 事務局

(資料確認)

○ 座長

資料はよろしいでしょうか。

続きまして、本委員会の公開について事務局から説明をお願いします。

○ 事務局

(会議の公開について説明)

○ 座長

会議の公開について事務局から説明がありましたが、よろしいでしょうか。

(委員了承)

それではそのように取り扱うこととします。

本日の傍聴者はいますか。

○ 事務局

本日の傍聴はありません。

○ 座長

それでは、案件を進めます。

はじめに、案件 1、「練馬区における生涯学習のあり方について」です。資料が提出されておりますので、事務局から説明をお願いします。

○ 事務局

(資料説明)

○ 座長

事務局から区の基本的な考え方についてご説明がありました。この考え方を踏まえ、この会議では、実際に生涯学習等の施策を区長部局に一元化するにあたって、施策や執行体制のあり方をどうすべきか、何に留意すべきかということを審議することが役割とされています。この資料についてご質問がありますか。

○ 委員

資料 4 の 4 ページに主な構成課とありますが、これが一つのグループとなっていくのですか。

○ 事務局

庁内の検討組織を構成する課を表しています。

○ 委員

区長部局へ一元化することはわかりましたが、教育委員会との関わりはどのようになるのでしょうか。文化芸術の会議でも同じような議論がありました。教育委員会も区長部局も連絡を蜜に、パイプを太くしなければといったことでした。生涯学習については、組織的には全部を区長部局に一元化していくと理解すれば良いのでしょうか。

○ 事務局

教育長が先ほどの挨拶で申し上げましたが、非常に多くの講座等があり、それらを一括して実施するというではありません。生涯学習を全体的に管理し、振興する組織を区長部局で一元化していく。また、例えば、現在、区長部局の文化国際課が文化芸術を所掌し、教育委員会の生涯学習課でも生涯学習の観点から文化芸術に関する事業を所掌しています。それらを一緒にしていこうというものです。

○ 座長

事業を精選し、見直しを行い、一元化を図るということです。事務局で想定したイメージを図表化したのが、資料 4 ですが、いかがでしょうか。

○ 委員

資料 4 の 5 ページのイメージ図の中で、すでにある課とこれから検討をしている組織があれば説明をお願いします。

○ 事務局

区長部局の地域振興課は現在ある課ですが、文化生涯学習を担当する課は今はありません。資料 7 の 2 をご覧ください。生涯学習に関係する現在の組織です。総務部に文化国際課があり、文化芸術を担っています。区民生活事業本部産業地域振興部の地域振興課が、地区区民館といった地域の施設や光が丘区民ホール、あるいは地域の団体活動を支援するといった事業を担っています。生涯学習部は生涯学習課、スポーツ振興課、光が丘図書館がありますが、基本的には、生涯学習部と総務部にある文化国際課を地域振興を担う区民生活事業本部で一元化していこうというものです。

○ 委員

イメージ図だけでは理解ができませんでした。今説明を受けて少し整理ができました。

○ 座長

事務局から、順次資料の説明を受ける中で、何を議論すべきかが明確になろうかと思えます。できるだけ組織や施策の効率化を図りながら、住民に豊かなものを提供するために、どうあるべきかを議論していきたいと考えています。今日は、最初ですので事務局から材料を提供いただき、理解を進めていくことになろうかと思えます。次の資料の説明をお願いします。

○ 事務局

(資料説明)

○ 座長

資料のご説明をいただきました。現状として教育委員会と区長部局とで重複している部分が多いということです。今後の課題として、資料にあるように効果的、効率的な事業を実施するという事で、基本構想に沿った組織の改革を行うこと、そして、区長部局と教育委員会の役割が不明確であることからこれを明確にし、事業を精選して一体化し、連携を図っていくとの構想かと思えます。委員の皆さんから、全体的なことも含め、ご質問、ご意見をいただければと思います。

○ 委員

区民の方が、何か生涯学習をしたいと思ったときに、教育委員会に聞いたり、区長部局に聞いたりとどこに聞いて良いかなかなか分からなくて不明確となっていると思

います。自分たちで何か生涯学習をしたいといった場合に、利用者に分かりやすくしていくことが一つあると思います。行政側ではいろいろなところで事業を実施しています。文化芸術についてもそうですが、教育委員会と区長部局でもやっています。時にはセクショナリズムに陥ることがあるため、そうではなくて、ここでは一緒にして効果を高めていくと理解をしていいのでしょうか。

○ 事務局

基本的にはそのとおりです。課題の中でも申し上げましたが、これから取り組んでいくべき生涯学習振興の課題はたくさんあり、それらを進めるにあたっては、今の組織の状態ではばらばらに実施するよりは整理をし、分かりやすく、どのようにしたら効果的にできるかということを検討することが必要と考えています。

○ 委員

生涯学習は幅が広いものです。区民のニーズも広く、それぞれ違います。講座等が膨大な数ということですが、どんどん増えていきます。行政がすべてに応えるのは大変です。コントロールしていかなければならないと思います。そのため組織をしっかりさせて、うまくコントロールしていこうという狙いがあると思います。同時に、生涯学習をやっているからにはその活動が活性化していかなければ困るわけですが、一方で区としてはみんながやりたいこと全てに応えていくことは、はなかなか大変なことです。たくさんのジャンルでやっているとどれがどうなっているか分からなくなってきました。区としては活性化していきたいものの、利用者の立場、行政の状況があり、ある分野では非常に熱心な方がいて、その年は活発化しているが、ある年になると参加者が少なくなってしまうといったこともあります。そこをきちっとしたいわけですが、どうやったらきちっとできるか、国ではどのようにしているのかご存知ですか。

○ 座長

国では地方公共団体と違って住民に直に接することはありません。地域づくりといった観点からの取り組みの中で、行政と利用者をつなげていくことを考えているようです。

○ 委員

文化芸術の会議でもありましたが、練馬区の特徴を生かした取り組みをしていくことが大切だと思います。区民の意見を吸い上げなければならないが、すべてを聞くことは大変なことです。区の特性を生かして区がリードをしていく部分もあっていいと思います。文化芸術では練馬区はアニメが特徴としてあり、これが生涯学習とどうつながっていくか、検討することも必要ではないかと思います。それから、五味康祐さんから遺品をもらっていますが、これを利用していこうということがあるわけですが、そういったことについても、区民の満足が得られるような取り組みが大事だと思います。それが区民のニーズに応えることにもつながっていくと考えます。それをするた

めにどのようにしていくことが良いのかを、ここで話し合っていくものと感じています。

○ 座長

今のご発言に対して、区はどのように考えていますか。

○ 事務局

文化芸術にしても、例えば美術館と舞台芸術を扱う文化センターが、一緒になることによって、あらたなコラボレーションができるのではないかということや、もっとほかの展開ができるのではないのかなどを考えています。

○ 委員

スポーツにしても、文学にしても連携することでうまくいくことがあります。

○ 座長

現状を資料で説明いただきましたが、事業が重複しているものが多くあって、それを整理し、かつ施策を振興していくことが重要です。今までの施策を見直して新たな局面を考えているとも取れます。

スポーツの分野から見てどうですか。

○ 委員

資料 6 を見て、スポーツでも似たような内容の事業が重複していることがわかります。二元化していることで区民にとってマイナス面ということの話がありました。文化事業でもそういうことがあろうかと思えます。効率、非効率ということは組織からの見方ではありますが、区民の視点からマイナスな面といったことがあるのかどうか。一元化されることによってどのようになるのか、区民の視点を積極的に入れていくことが大事ななところだと思います。例えば、現状と課題の中で区民の視点から二元化していることの問題点はあまり出てきていないと思います。おそらく把握されていると思いますが、資料 6 以外で何かありますか。

○ 事務局

区民にとっての分かりづらさということはありません。非効率ということは確かに組織の話ではありますが、重複してやっているために、全体として生涯学習がシリーズ的になっていかないという面があります。単発で事業が終わっていて、また似たようなものを他で実施しているなど、効果が少ないやり方になっていると思います。区民の方々は、お手元に配布した学習・文化ガイドブックで何があるのかを知ることができます。いろいろなところでやっていることはわかりますが、利用したいものを問い合わせるにしても、よく分からない状況になっているとも言えます。そういったものがある部署で集中的に管理をすることが必要ではないかと思っています。

○ 座長

利用する区民にとって分かりやすくなることが重要と考えます。いままでのマイナ

ス面を明確にし、メリットある方向にもっていくにはどうしたら良いかについて、この会議で方向性が出せればと思います。

○ 委員

利用する区民の立場から見ると、似たような事業があります。例えば妊娠中に母親学級については区長部局に聞いていけば良いのですが、子育て学習の講座を受ける時に、母親学級と同じように区長部局に問い合わせをしても、担当ではないといわれてしまって、利用しにくくなっているといった状況があると理解をしました。そういった点では、わかりやすさや区民が参加しやすくなることは期待できると思います。ある講座に参加をしたいときに、必ず参加できる方と、なかなか申し込んでも参加ができない人がいるなど、ある種の不平等感が窓口が一元化されることによって解消されるメリットが生じてくるのではないのでしょうか。一方、窓口が一元化し、利用しやすくなるといったメリットだけなのか、一元化することで生じてくるデメリットはあるのか、ないのか、そういった可能性について考えることも重要だと思います。

○ 委員

生涯学習だけを事業仕分けのようにしていくことは如何なものかと思います。生涯学習は、やりたいという想いから出発して、専門的に勉強しよう、上手になろうとするものです。現在あるものは存続させていくことを基本として、同じものがあるとなればコントロールすることも考えられますが、ある地域でこういったものがありますよといった情報を提供してあげることや、同じようなものが3つ、4つあれば時には集まって一緒に何かをすることも考えられます。行政が、利用者に情報を提供することで、生涯学習のクオリティを高めていくことができると思います。今存在するのは基本的に残していくべきだと思います。

○ 座長

現段階で一元化することで生じるデメリットとして、区が想定していることはありますか。もしそうであれば、そのデメリットをどう補おうとしているのかを教えてください。

○ 事務局

資料5の2の(2)にあるものを一つにまとめてしまうことは考えておりません。まったく同じものが同時進行しているというものは別ですが、生涯学習に関する総合的な情報の収集、提供について、一元化して管理するといったことを考えています。

今回、一元化を図るという考えがあるわけですが、教育委員会に引き続きあったほうがよいもの、区長部局で一元化していったほうがよいものといった議論をいただければと考えています。

○ 座長

今回の基本構想では、子ども分野というように年齢で分野を区切っています。教育

委員会、区長部局で具体的にどのように分けるのかについても議論したいと思います。

○ 事務局

例えば、健康部が健康体操をやっています。これについて、なぜ、スポーツ振興課がやらないのかという考え方もあります。生涯学習を進めるにあたっては、何らかのストーリー性があり、一連のものを提供することによって、区民の幸せがどのようになっていくかトータルにストーリーが描けていることが重要だと考えています。そういったときにまとまっていないとストーリーを描ききれません。健康部が健康体操や腰痛体操などをやっていますが、スポーツという視点で一緒にやった方が次への展開ができるという考え方もあります。

○ 座長

そういった現状の中で、連携を図る仕組みをつくっていくことが大切だと思います。区民側から見てメリットがあるようにするにはどうしたら良いかを含めて、考えていきたいと思っています。

今日は、現状を知ることが主眼ですが、これからそれぞれのご専門の立場からご提言をいただくようになると思います。まずは、資料の中で不明な点があるかどうか、疑問は共有していきたいと思っています。

○ 委員

今までの意見等を参考にして整理していきたいと思っています。

○ 事務局

まず、基本の方針があります。一元化することによってどのようなメリットがあるのか。生涯学習組織といっても、生涯学習、図書館行政、スポーツ振興もあり、それらを区長部局に移管していったときに、どのようなデメリットがあるのか、またどのような困ったことが予想されるのか、これが気になるといったことについてご議論いただければありがたいと思います。生涯学習と図書館の関係、学校教育との関係といった視点からもお願いしたいと考えています。

○ 座長

今のご説明でご理解いただけたかと思います。おわかりにならない点が他にございますか。

○ 委員

組織といったものはなかなかうまくいかないものです。ただ、組み替えてみる、試してみる、なるべく良くしていこうということで試してみるということは意義があると思います。しかし、組み替えて一番困ることは担当部局が変わることで問い合わせに答えられないということです。担当ではないが、こちらへ問い合わせをといたことができればそれはそれで評価できるのではないのでしょうか。現在は、これは文化国際課、これはスポーツ振興課となっていますが、そうではなくて、中心となるところ

があり、いつでも他の部署とつながっている、そういった組織にしたいということだと思います。うまくいっていないことは現実にはたくさんあるわけで、そこをまず調整して、一つにしてみる。これがベストということではないが、一応やってみる。決めて行動し、連携が取れるようにしていくことを練馬区が前向きにやっています。期待しています。

○ 座長

基本構想審議会の中で、住民を中心とした自治をどのようにして行くのか、地域をつくっていく上で、人をどのように育てていくのか、といった非常に大きな視点の議論がありました。その結果、区長部局に住民のサービスの大きなところを持っていき、子ども分野は教育委員会が中心に担っていくという方向に大きく変わろうとしているわけです。今回は、事務局から資料の説明を受けましたが、この資料ではわからないことや、さらにこういった資料があればといったことがあれば事務局に伝えてほしいと思います。この段階で何かありますか。

○ 委員

地域づくりといったキーワードがありました。学校を活動の場としてとらえられることもあろうかと思えます。学校開放や学校図書館がありますが、教育の機能としての学校ではなくて、箱としての学校の所管はどうして行くのかという視点もあろうかと思えます。デメリットの話とも重なりますが、学校開放、学校図書館に関する考え方はありますか。

○ 座長

そのことは気になる点です。コミュニティの中核としての学校の存在も重要です。学校の機能を生涯学習施策の中でどのように考えるかを整理して、事務局から提示していただければと思います。

○ 委員

公立学校に勤めている人は管理の面から学校開放をあまりしたくないとの意見を聞いたことがあります。いろいろな方が学校に入ってくると管理できないということです。しかし、今は、それはありえないことです。どのくらい学校が譲れるかが問題ですが、しかし、何でもかんでも区民が自由に学校を使うとなると学校教育に支障が出てきます。現実論としてはここの部分が難しいところです。学校開放については、学校も変わってきていますが、いかがでしょうか。

○ 事務局

学校との関係などを考えると学校開放事業は教育委員会が所管した方が良いのではないかと考えています。学校との連携から今までどおりで良いのではないかとことです。また、区長部局へ移管するにしても十分検討して移さないと齟齬が生じる恐れがあります。私たちが答えを持っているわけではありませんが、この会議の中で、懸念が

ある点を聞き、さらに整理をしていきたいと考えています。

○ 座長

施設としては、学校と学校以外の施設、子どもが使う施設と成人が使う施設等々あり、それぞれについて、課題を明らかにする必要があります。今日は現状を理解することが第一義的なことでしたが、最終的には提言を出すこととなります。限られた時間でもあり、関連した資料がありましたらこれからも出して欲しいと思います。

○ 委員

公共図書館と学校図書館の連携を図っていかなければならないと考えていますが、おかれている場所も、利用者も違います。情報を総括する窓口として、一括するという考え方です。利用者にとってどうなのか。この問題についても、考えていかなければならないと思います。

○ 座長

練馬区の仕組みを説明いただきました。委員のみなさんは、専門分野から改めて今日の資料を見直していただき、何か不明な点、疑問な点があれば、随時事務局へ問い合わせさせていただきたいと思います。

本会議は、基本構想に基づいた組織に変えるという前提や枠組みの中で、生涯学習がどうあるべきかをご検討いただくものです。次回以降の進め方のご提案なのですが、私と事務局でたたき台のようなものを作らせていただき、それにご意見をいただいてまとめていくというやり方で進めたいと思います。いかがでしょうか。

(委員了承)

それではそのように進めさせていただきます。

それでは、今後の予定について事務局から説明願います。

○ 事務局

5月に3回の会議をお願いしたいと考えています。次回は5月12日水曜日とし、その後毎週水曜日の午後6時30分からお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

(12日の都合が悪いとの声あり)

○ 座長

では、11日ではどうでしょうか。

(委員了承)

それでは、第2回を5月11日、第3回を19日、第4回を26日の午後6時30分からということでお願いします。最後に、その他で事務局から連絡することはありますか。

○ 事務局

会議の資料については、開催前にお送りします。恐縮ですが、お目通しいただき、

当日ご持参いただきたくようお願いします。次回の会議の場所については別途連絡をさせていただきます。

○ 座長

よろしいでしょうか。

(委員了承)

それでは、以上で第 1 回練馬区生涯学習のあり方に関する会議を終了いたします。